

# ご 案 内

申請者(代理者)の皆様へ

羽曳野市建築指導課

## 全幅員が市管理されている場合の 建築基準法第43条第2項第2号許可の提案基準について

市認定道路及び市管理道路であっても、その幅員が4m未満の道路は、建築基準法第42条第2項に該当する場合を除き、同法上の道路とはなりません。

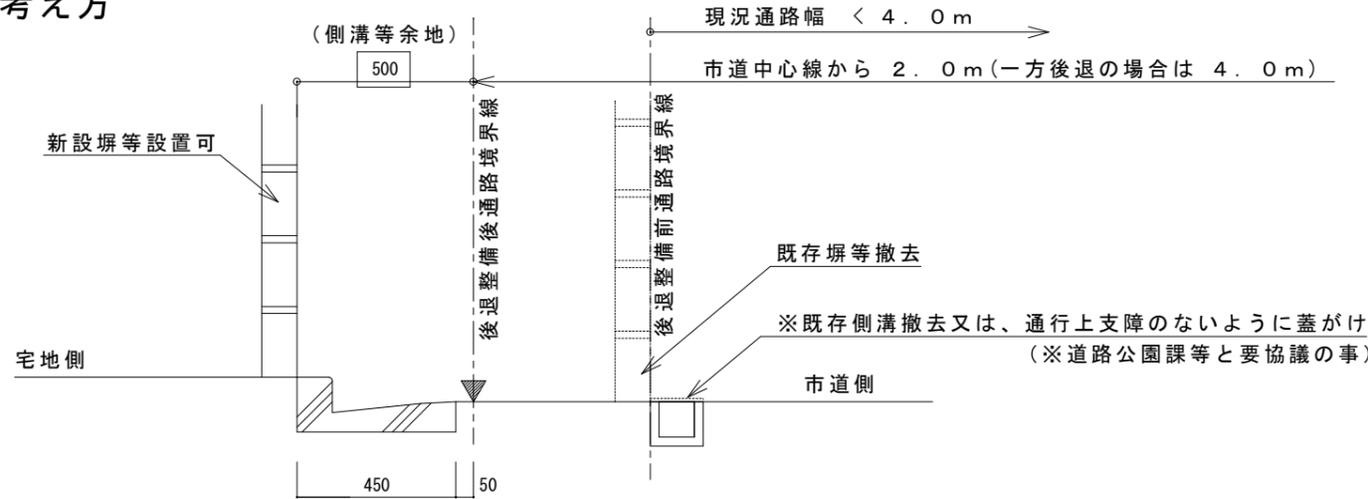
本市では、このような道路に接する敷地において建築物を計画される場合は、建築確認申請に先立ち「法第43条第2項第2号許可」を受けていただくことになります。

許可にあたっての提案基準には、現行の市道規格に適合させることを前提に、有効幅員を4m以上にするとともに、幅50cmの側溝等を含む余地と合わせ全幅員5m以上を確保することが必要であると考え、許可条件といたしました。(別紙側溝等標準図参照)

申請者(代理者)の皆様におかれましては以上のことをご理解の上、許可申請を行っていただきますようご案内申し上げます。

なお、側溝等の構造物の設置及びその用地を含む後退整備部分の管理につきましては、本市道路管理者とも十分協議していただくようお願いします。

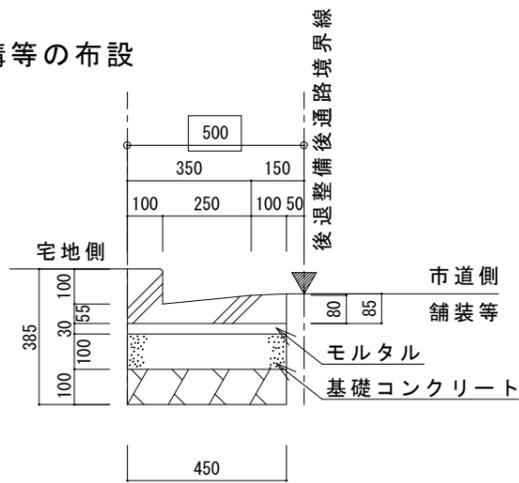
◎ 後退整備等の考え方



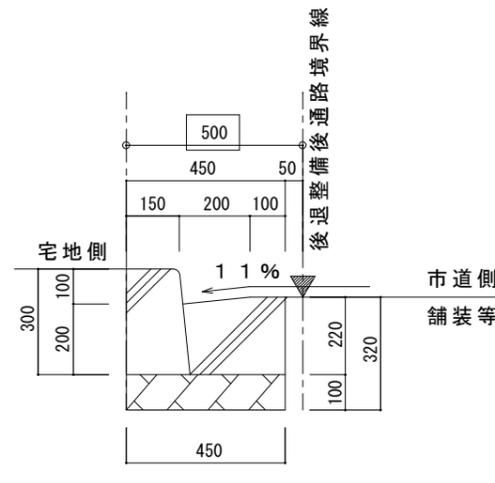
▼ 構造物等で後退整備後通路境界線を明確にすること

◎ 側溝等余地の部分の参考例

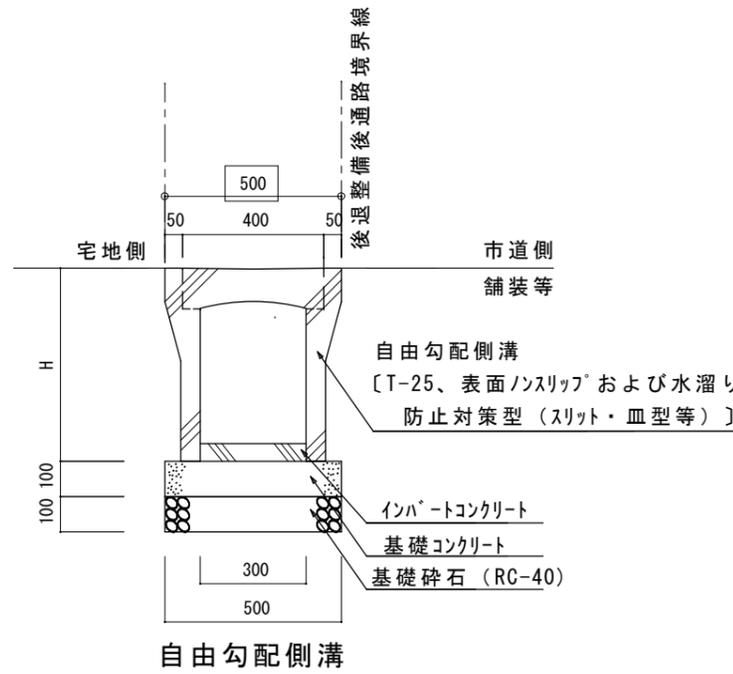
(1) 側溝等の布設



L型側溝 (JIS A5306 250B)

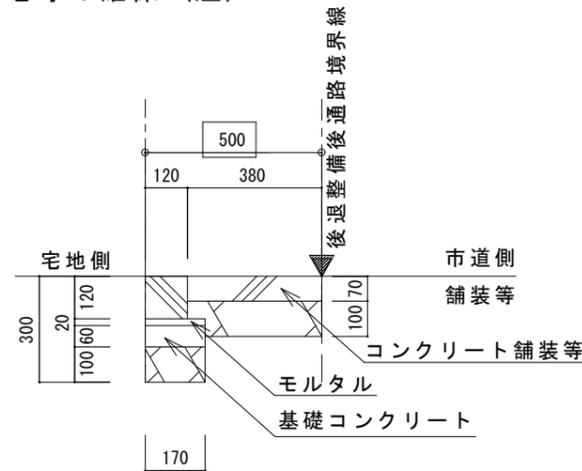


L型側溝 (現場打ち)

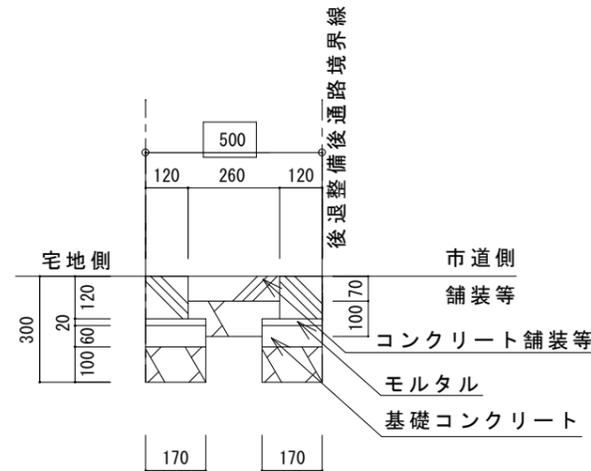


自由勾配側溝

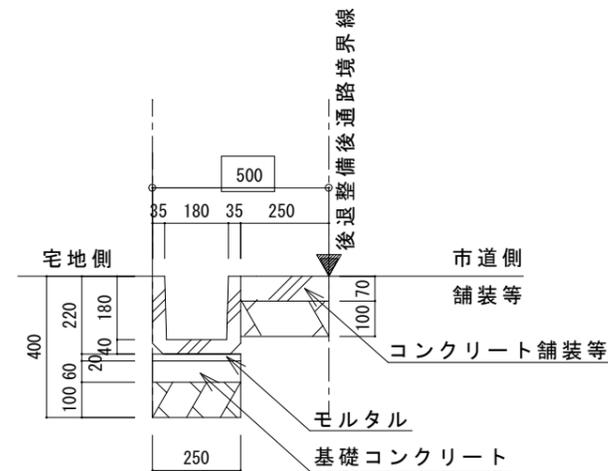
(2) 余地等の確保 (注)



地先境界ブロック A



地先境界ブロック A



U型側溝 (JIS A5305 180A)

(注) 余地については、敷地及び周辺の状況によりやむを得ない場合は、別途協議により参考例と異なる形態とすることができます。

側溝等標準図 (S=1/20)